

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270201056		
法人名	医療法人仙知会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地 (電話番号)	〒036-8302 青森県弘前市高杉字五反田173番地7 (電話) 0172-99-1188		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	18人, 非常勤 0人, 常勤換算 17.02人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造平屋建 2棟		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	5,375 ~ 冬期6,373 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 950 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	弘愛会病院、小泉歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとしての理念を全職員で考え、「住み慣れた町で、笑顔あふれる雰囲気、ゆっくり、その人らしく暮らす」という理念を新たに作り上げている。疎遠になっている家族との連絡先を探してくれたり、家族や知人のいる所へ機会を設けてくれるなど、積極的に親身になって支援している。重度化した場合には本人・家族の意向を把握して、同法人の有料老人ホームや他サービスの利用も考え、退居後でも同様に相談に乗ってくれるので安心である。入居者に対する職員の言葉掛けがとてども丁寧で優しく、入居者を尊重しているのが伝わってくる。医療連携体制加算をとっており、看護師との連携が取れている他、看護師から急変時の応急処置対応の指導をうけるなど、医療面でも安心できるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念を全職員で考え、従来の理念を基に新たに作り上げている。身体拘束に関し、介護保険法指定基準における禁止事項を確認し、全職員で拘束をしないケアに取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者がまず自己評価を行い、その後全職員で各項目について確認・話し合いが行われている。自己評価を基に、積極的な改善項目の検討が行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議には民生委員や包括支援センターの職員が参加しており、サービスの報告や外部評価を受けての報告を行っている。家族へも参加を呼びかけているが、なかなか参加していただけないでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	入居者、家族が苦情の申し出をしやすいように玄関へ意見・苦情受付のポストを設置した。家族の意見を引き出せるよう、アンケートなどの方法も検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣で開催されている敬老会へ参加したり、尺八や合唱の慰問を受けたりしている。同じ敷地内の有料老人ホームに友人がいる入居者がいるため、自由に行き来して交流できるようにしている。他の近隣住民との付き合いはあまり無く、馴染みの関係づくりになかなか取り組めないでいる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念に地域密着型としての理念を加え、「住みなれた町で、笑顔あふれる雰囲気、ゆったり、その人らしく暮らす」という理念を、全職員で考えて作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りなどの日々の話し合いの中で、理念について随時確認するようにしている。サービスの提供場面においても、理念が反映されるよう立ち帰って考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣で開催されている敬老会へ参加したり、尺八や合唱の慰問を受けたりしている。同じ敷地内の有料老人ホームとの交流はあるが、他近隣住民との付き合いがあまり無く、馴染みの関係をつくる取り組みがない。		さらに地域の自治会との交流を密にして、広報を利用するなど、日常的な隣近所との付き合いが出来るような取り組みに期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の「取り組みを期待したい項目」を全員で話し合い、改善シートを作成して改善に向けて取り組んでいる。自己評価は主に管理者が行っているが、全職員で評価内容を話し合っ確認している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議には民生委員や包括支援センターの職員が参加している。家族へも呼びかけているが、参加までには至っていない。会議の内容としては、サービスの報告や外部評価を受けての報告を行っている。</p>		<p>入居者・家族・地域住民の代表等へも会議の意義を理解していただき、積極的に参加していただけるよう働きかけてみることを期待します。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当課へ直接書類を届ける等して、情報交換の機会を増やすように努め、関係作りを積極的に行っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度について学ぶ必要性を理解しているが、まだ全職員で学ぶ機会は持っていない。</p>		<p>制度が必要とされる入居者が出てきた場合にいつでも支援できるよう、勉強会を開くなどして全職員で理解を深めることを期待します。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、万が一発見した場合の対応も職員へ周知されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には理解・納得していただけるよう、十分時間をかけてわかりやすく説明している。料金の改定があった場合、家族へ説明して同意を得るようにしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月一回、暮らしぶりを伝えるため、写真入の便りを作成して家族へ送っている。金銭の出納状況も毎月報告している。また、家族が面会に来たときにも健康状態等を知らせるようにしている他、三ヶ月に一回は家族へ電話をして様子を伝えるようにしている。新しい職員や異動等も、便りや面会時に紹介している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所以外の苦情窓口を重要事項説明書に載せて説明している。意見を出しやすいように、意見・苦情受けのポストを玄関に設置している。アンケートなどの方法で家族の意見を引き出すことを検討している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動はなるべく少なくなるよう配慮している。異動する場合は利用者へのダメージを防ぐため、担当者間の引継ぎに3ヶ月かけて、十分情報が伝達されるようにしている。新任職員が配属された場合は、OJT表にもとづいて、一ヶ月間は担当職員がついて教育するようになっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数に応じた研修に参加させるようにしている。新任職員へはOJT表を作って育成を図っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と知り合いの同業者とで情報交換を行っているが、サービスの向上に役立つ実践的な交流がない。		さらに交流を深め、相互の質向上につながる取り組みに期待します。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を随時受け付けており、入居前には訪問して聞き取りをしたり、サービスを見てもらったりしてから利用していただいている。認知症が進んだり、ホームに慣れない場合は、他施設への紹介も視野に入れながら相談に乗っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	配膳や食器洗い等それぞれ入居者の持っている力を発揮してもらう場面を提供できるよう配慮しており、入居者への「どうもありがとう」という声かけがよく聞かれていた。入居者の話を丁寧に聞いて、本人の思いと一緒に共感しようとする姿勢を持つようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントには三団体方式を一部採用している。嗜好調査は入居時と毎年一回、他日常で得た情報を随時盛り込んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス計画書へは本人の思いや希望を盛り込んでいる。面会や電話連絡時に家族の意見を聞きだすようにしている。本人の意向のニュアンスが伝わりやすいように、本人の言葉をそのまま計画書に載せるようにしている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月に1回見直しをし、また入居者の状態が変化した場合はその都度行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人行きつけの床屋へ連れて行ったり、病院受診の付き添いも行っている。入院したときには、早期退院へ向けて病院、家族と連絡を取り合っている。家を見たいという方を家まで連れて行ったり、知人との交流の機会を設けたりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院もあるが、入居者のそれまでのかかりつけの病院があれば、そちらを優先して受診できるように支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人・家族から状態が落ちた場合の意向を聞き、話し合うようにしている。状態に変化があったとき、重度化した場合には本人・家族の意向を踏まえ、他サービスの利用も考えながら再度話し合うようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する職員の言葉がけ、語調や内容がとても優しく、入居者を尊重しているのがわかる。プライバシーに関する話をするときは、居室で話すようにしている。管理者はプライバシーを損ねるような行動がないよう、職員へその都度注意している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴順や行事への参加など、本人の希望にあわせて支援している。外出希望があればできるだけ応じるようにしている。ホールで過ごす方、居室で過ごす方、それぞれのペースで過ごされていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は配食サービスを利用しているが、配食だけにせず、寿司の日、外食の日、鍋の日などを企画している。入居者の好みを把握し、代替品も用意している。味見や盛り付け、配膳などを入居者と一緒に行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は月・水・金の週3回、午前中に入っている。便失禁があったときや、体調が悪いときにはシャワー浴、足浴で対応している。午後は通院が多い都合もあり、対応はむずかしい。</p>		<p>午前中入浴が常態化していないでしょうか。入居者の入浴ニーズの把握を今一度行い、今の体制で希望に対応できているか確認してみましょう。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>ごみ捨て、洗濯、食器洗い等、その方の状態に応じて生活上の役割を持ってもらっている。またアセスメント時に趣味、希望を聞き取り、やりたい事の把握に努め、編み物や将棋、手工芸など、趣味の支援もおこなっている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>月に1～2回は車でもみじ狩りや、ショッピングモールなどへ外出するようにしている。その他にも週に一回は買い物に出かけている。車いす、寝たきりの入居者でも、散歩や外気浴の支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束に関して学んでいる。転落の危険性があるため、ベッド柵を利用した事例があったが、あくまで一時的なものであることを職員は理解し、定期的なカンファレンスで解除を検討している。家族へも文書で説明して同意を得ている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠する弊害を理解しており、職員の員数をみて、なるべく開錠するようにして開放的なホームを目指している。また、帰宅願望のある入居者へ、個別外出するなどして対応している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。警察や同じ敷地内の同法人事業所とは緊急時・災害時の連絡体制は取れているが、地域住民・消防署との連携がない。非常用の食料・備品の準備がない。		地域住民や消防署との協力体制を作ること、非常時の食料・飲料水・備品の準備を整えることを期待します。また訓練では火災だけでなく、地震も想定してはいかがでしょうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分摂取量を把握している。また、毎月体重測定(要観察の方は毎週)を行っている。配食サービスを利用しているので、栄養士が作成した献立であり、栄養面のバランスはとれている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルをつくり、申し送り時に全職員で確認している。インフルエンザの予防接種は全員受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下の先へ椅子を置いて屋外の花や畑を見ながら過ごせるスペースをつくっている。ホールは椅子だけであるが、畳でくつろげる部屋も用意している。卓上へは季節の花が活けられていた。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には本人の馴染みの物があまり見当たらないので、施設的な雰囲気である。本人の使い慣れた物の持込をお願いしているが、その人らしい部屋作りが成されていない。</p>		<p>本人の持ち物が少なくても、本人の意向を確認しながら、その人らしく安心して暮らせるような部屋作りに取り組むことを期待します。</p>

 は、重点項目。